

令和 3 年度 中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】 心身ともに健康で、気力にあふれ、夢に向かって創造力とたくましい実践力を発揮し、新しい時代を拓く
知性豊かな児童を育成する。

【子ども像】

- よく考え、自ら学ぶ子
- 健康で、粘り強くやり遂げる子
- 誠実で、思いやりのある子
- きまりを守り、責任を果たす子
- 広い心を持ち、文化を大切にする子

《 合言葉 》
【 考える 】
【 やりぬく 】
【 助け合う 】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- 「子ども」にとって …………… わくわくしながら登校し、満足して下校できる学校
- 「教職員」にとって …………… 自分の力を十分に発揮できる、やりがいのある学校
- 「保護者」にとって …………… 安心して子どもを通わせられる学校
- 「地域」にとって …………… 信頼できる地域とともにある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人権を尊重し、心豊かな子供を育成するために、多様な人々と協働する主体的な活動を取り入れ、よさを認め励まし、基本的な生活習慣の定着を図る心の教育の推進に努める。
- (2) 自ら学び、考え、表現する力を育成するために、意欲の向上と深い学びの実現に向けた 学習指導の充実に努める。
- (3) 健やかでたくましく生きる子供を育成するために、体力の向上と望ましい食習慣の形成と命を守る安全教育の充実に努める。
- (4) 家庭・地域・関係機関との連携した社会に開かれた教育課程を推進し、地域の人的・物的資源を効果的に活用した地域とともにある学校づくりに努める。
- (5) 教職員がいきいきとやりがいをもって勤務し、共働・協働の意識を高め、使命感と専門職としての自覚のもと、研修に励み、信頼される職場づくりに努めるとともに、教職員の働き方改革の視点に立ち、校務の効率化と勤務時間の適正化を図り、職場環境改善のための取組を推進する。
- (6) 旭地域学校園の教育ビジョンを目指し、地区内の小中学校の情報共有と共通実践を通して小中連携の一層の充実に努める。

「旭地域学校園教育ビジョン」

地域に愛される旭っ子の育成 ～地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 国・県・市の基本方針、並びに児童の実態や地域の状況を考慮し、教育活動全般を通して特色ある教育を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、変化に激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力である「生きる力」を培うためことを目指した教育課程の編成に努める。
- (2) 小学校学習指導要領の趣旨を十部に踏まえ、家庭や地域と連携を図り、それらの教育力を活用し広がりを持った教育活動が実践できるよう、社会に開かれた教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【学校運営】 ○「大樹のごとく伸びる子」を育むために、学校の組織力を高め、学校・家庭・地域の連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。
- 【学習指導】 ○主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成
～ 自分の思いをもって、豊かな表現ができる授業づくり ～
- 【児童生徒指導】 ○基本的な生活習慣を身に付け、集団生活のルール・マナーを守る態度の育成
“『あはは』と笑顔輝く学校に！”
～ あいさつ・「はい」という返事・はきものをそろえる ～
- 【健康（保健安全・食育）・体力】 ○自ら判断し、進んで健康で安全な生活をしようとする児童の育成
～ 「自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動する児童」
「自分の体に関心をもち、健康で安全な生活ができる児童」をめざして

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①授業の中で、児童が「知りたい」「解決したい」と思えるような課題の設定や提示の仕方を工夫して、知的好奇心を喚起し、児童の学びに対する主体性を高めます。 ②落ち着いて話を聞くことができる児童を育てるため、学年に応じた「聞き方」の指導に努めます。 ③自信をもって自分の考えを伝えたり、友達の前で発表したりできるように、授業の中で、ペアやグループ、全体活動など学習形態を工夫します。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>92.1</td><td></td><td>94.8</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>96.3</td><td></td><td>92.4</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者すべて目標数値を上回った。話合いの場を意図的に設定したり、問題解決的な学習展開をしたりすることで主体的な態度で学習に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・児童の興味関心を高める課題設定や、対話的な学びの設定に努めるとともに、児童が主体的に学習に取り組めるような指導・支援の工夫改善を図る。 ・タブレット型パソコンで Jamboard を活用する。 ・学年に応じた「話の聞き方」の指導を引き続き行う。 ・自信をもって自分の考えを伝えたり、友達の前で発表したりできるように、授業の中で、ペアやグループ、全体活動など学習形態を工夫し、話合い活動や発表の機会を多く設定する。 ・友達の発表を認め合える雰囲気を培い、「間違ってもいいのだ、大丈夫だ」という安心感のある学級経営に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	92.1		94.8	R2	100	96.3		92.4
		教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	100	92.1		94.8															
R2	100	96.3		92.4															
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】(A11) 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 90%以上	①異学年活動の充実を図り、高学年児童が自信をもってリーダーシップをとり、望ましい人間関係を構築できるよう支援します。 ②児童が互いに認め合い、自己肯定感を育てられるよう、「特別の教科 道徳」の充実を図り、認め、励ますなどの声掛けに努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>92.7</td><td>100</td><td>96.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>92.4</td><td>100</td><td>88.6</td></tr></table> ・児童・保護者・地域とも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・コロナウイルス感染拡大防止の観点を踏まえ、実施方法や内容を工夫することで、可能な範囲で高学年が主体となった異学年の交流活動の機会を継続していき、様々な学年の児童が交流できるよう促していく。 ・児童の肯定的回答が上昇したことから、引き続き「特別の教科道徳」において、自己の生き方を考え、深める学習活動をていねいに積み重ねると共に、日常生活においても互いに認め合い自己肯定感を高められるよう、様々な支援を行う。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	92.7	100	96.0	R2	100	92.4	100	88.6	
	教職員		保護者	地域住民	児童														
R3	100	92.7	100	96.0															
R2	100	92.4	100	88.6															

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①「ザウルスキッズ5つのやくそく」の意識化と実践化を図るため、『あはは』（あいさつ・「はい」という返事・はきものをそろえる）に焦点を当てた指導を行い、基本的な生活マナーを守っていこうとする態度の育成に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>95.4</td><td>100</td><td>89.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>94.8</td><td>100</td><td>83.7</td></tr></table> ・児童・保護者・地域とも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の肯定的回答が上昇したことから、引き続ききまりやマナーを守っている・守ろうとしている児童の姿を積極的に称賛することで、児童一人ひとりが基本的な生活マナーを守っていこうとする意欲を高められるよう支援していく。 ・毎月はじめの一斉下校時に全体で確認することで、下校のきまりやマナーを守る意識をもたせるようにしていく。 ・朝の会の時間を活用し、きまりやマナーに対して発達段階に応じた指導を行う。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	95.4	100	89.7	R2	100	94.8	100	83.7
			教職員	保護者	地域住民	児童												
	R3		100	95.4	100	89.7												
R2	100	94.8	100	83.7														
②安全な登下校のきまりやマナーについて、それぞれの担当場所の問題点について学校全体で情報を共有し、児童への指導に当たります。																		
③月ごとの行事や気候に合わせた生活目標を設定し、帰りの会等で児童自身が振り返りを行うことで、望ましい生活習慣の確立に努めます。																		
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①教職員が率先して明るいあいさつの実践、声掛けに努めます	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td>84.5</td><td>100</td><td>96.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>84.2</td><td>100</td><td>95.6</td></tr></table> ・児童・保護者・地域とも目標数値を上回った。 ・目標値は上回ったが、保護者の肯定的回答が教職員・児童に比べ低い値となった。 【次年度の方針】 ・各学級での指導と合わせ、一斉下校時の指導時間を活用し地域へのあいさつができるよう促していく。 ・あいさつに関する取り組みが実施できた際には、ホームページや学年便り等を活用して児童の姿を発信していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	84.5	100	96.0	R2	100	84.2	100	95.6
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	95.7		84.5	100	96.0													
R2	100	84.2	100	95.6														
②地域や家庭と連携し、学校内・外でのあいさつの習慣化を図ります。																		
③道徳、学級活動、日々の指導を通してあいさつの種類や時と場に応じたあいさつについて指導していきます。																		
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】(A7) 全体アンケートの「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上、 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①より高い目標を立て「挑戦する」体験活動や「がまんして」やり続ける活動、「あきらめず」に努力し、最後までやり遂げる活動を設定し、児童が達成感や成就感を味わうことができるように努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>91.3</td><td>78.1</td><td></td><td>87.9</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>83.1</td><td></td><td>89.6</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が昨年度を5ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・様々な挑戦の機会を生かし、最後までやり遂げられるよう支援したり、称賛や承認の場面を設定したりすることで達成感や成就感を味わわせるようにする。活動後には積極的に家庭へ伝え、共通理解を図ることで、児童の意欲を高めていく。 ・学級や個人の目標を意識させ、一人ひとりが目標達成に向け実践継続できる支援に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	91.3	78.1		87.9	R2	100	83.1		89.6
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	91.3		78.1		87.9													
R2	100	83.1		89.6														
②「宮っ子心の教育表彰」を活用して学校独自の表彰制度を整えるなど、児童のよさや努力等を積極的に認め、励ます教育に努めます。																		

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 9 0 %以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答 8 5 %以上	①新型コロナウイルス感染症予防についての指導や様々な危険を想定した避難訓練を実施することを通して、「生活安全」・「交通安全」・「災害安全」に関する教育の充実に努めます。 ②健康な体作りができるように、運動・食事・睡眠・手洗い・うがい・消毒などの健康的な生活習慣や病気・けがの予防法について指導していきます。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>93.6</td><td>100</td><td>96.6</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>92.4</td><td>100</td><td>91.3</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域全てが 9 0 %を上回り、目標を達成することができた。また、児童の肯定回答が昨年度から 5 %上昇した。 【次年度の方針】 ・コロナ禍での学校生活やタブレット使用に関する安全ルールを示し、児童の危険回避に対する意識を高めていきたい。 ・外遊びをする児童が減少傾向にあるので、奨励していきたい。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	93.6	100	96.6	R2	100	92.4	100	91.3
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	100	93.6	100	96.6														
R2	100	92.4	100	91.3														
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】(A5) 全体アンケートの「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 8 5 %以上、 ⇒保護者の肯定的回答 8 0 %以上	・自分自身の将来の夢や目標をもつことができるように、外部講師による「教えて先輩」や「クリーン活動」などの活動を計画実施し、社会に目を向け努力できるよう支援します。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>91.3</td><td>78.1</td><td></td><td>87.9</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>83.1</td><td></td><td>89.6</td></tr></table> ・保護者の肯定的回答が昨年度を 5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・意欲的に活動している児童を積極的に称賛することで、社会に貢献する態度の育成を図る。活動の様子を家庭に伝えと共に、ホームページや学年便りを活用し、発信していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	91.3	78.1		87.9	R2	100	83.1		89.6
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	91.3	78.1		87.9														
R2	100	83.1		89.6														
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 9 0 %以上	①児童生徒が、英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるよう、教員が自ら積極的に英語を使うとともに、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を推進します。 ②英語のネイティブスピーカーであるALTを、授業はもとより休み時間や放課後などあらゆる時間において活用し、児童生徒が生きた英語に触れる機会の充実を図ります。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td></td><td></td><td>93.1</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td></td><td></td><td>95.1</td></tr></table> ・児童・教職員は目標数値の 90%を上回った。授業や授業以外の時間においても、ALT と積極的な関わりをもったことや、給食時の校内放送での英語の読み聞かせなどで英語に慣れ親しむことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、外国語活動（英語活動）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。 ・児童の英語でのコミュニケーション力を高めるため、教員は ALT と授業の目標や活動内容について共通理解を図り、英語で会話する効果的な授業を展開する。 ・児童が生きた英語に親しめるように、引き続き昼休みや清掃の時間など授業以外での ALT とのふれあいの機会を多く設定する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7			93.1	R2	100			95.1
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	95.7			93.1														
R2	100			95.1														

A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①児童が、「宇都宮学」で学んだ歴史や伝統文化、産業などについて知り、郷土への愛情と誇りをもてるような学習を推進します。	B	【達成状況】															
	②「宇都宮学」で学習した内容を、学校だよりや学年だより等で周知することに努めます。		<table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td>81.4</td><td></td><td>89.1</td></tr><tr><td>R2</td><td>91.7</td><td>75.9</td><td></td><td>85.3</td></tr></table> ・総合的な学習の時間等で校外の活動を取り入れたことにより、児童の肯定的回答が目標値を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、工夫しながらできる限り校外学習を取り入れ、積極的に推進する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	81.4		89.1	R2	91.7	75.9		85.3
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	95.7	81.4		89.1														
R2	91.7	75.9		85.3														
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】(A25) 全体アンケートの「児童(生徒)は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上, ⇒保護者 80%以上	①これからの社会に求められる情報活用能力を育成するために「情報モラル教育」や「パソコンを活用した授業の実施」「プログラミング教育の推進」等の充実を図ります。	B	【達成状況】															
	②タブレット型パソコンを用いて「学びのコンテンツ」の活用を図ります。 ③学習における図鑑などの書籍や新聞等の活用を推進し、図書室の学習センター・情報センターとしての機能を充実させます。		<table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>86.5</td><td></td><td>93.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>95.8</td><td>70.8</td><td></td><td>91.3</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者とも目標数値をそれぞれ上回った。タブレット型パソコンを効果的に活用することができた。また、図書館司書と連携し、図書資料を学習に効果的に取り入れることができた。 【次年度の方針】 ・今年度導入された一人一台のタブレットのさらなる有効活用のため、研修を深める等、GIGA スクール構想の推進に努める。 ・図書館司書と連携して、調べ学習等で活用しやすいように、書籍を整理したり、テーマごとに分類した資料を作成したりして、積極的に図書の活用を促進する。 ・児童がコンピューターなどに親しみ、適切に活用する能力を育成するために、調べ学習や学習のまとめにおいて、積極的に ICT 機器を活用する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	86.5		93.7	R2	95.8	70.8		91.3
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	100	86.5		93.7														
R2	95.8	70.8		91.3														
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】(A2) 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上, ⇒保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①高齢者や学校支援ボランティアとの交流、「感謝の会」などを通して思いやりの気持ちなどを育てます。	B	【達成状況】															
			<table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>92.7</td><td>100</td><td>96.0</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>92.4</td><td>100</td><td>88.6</td></tr></table> ・教職員・保護者・地域・児童共に目標値を上回った。児童は 7.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・昔遊び体験や七輪体験、ボランティアとの交流を行う前後には、どのような思いで参加してくださるのかを考え、感謝の気持ちをもち、育てることができるよう支援していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	92.7	100	96.0	R2	100	92.4	100	88.6
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	100	92.7	100	96.0														
R2	100	92.4	100	88.6														

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	①国語・社会・総合的な学習の時間等において、環境問題やエネルギー問題、防災等の「持続可能な社会」を見据えた授業の充実を図ります。 ②地域クリーン活動、宇都宮市役所景観みどり課と行う「緑いっぱい活動」、教材園活動など、環境に関わる教育活動を展開します。 ③避難訓練等を通して火災、地震、豪雨のような自然災害に備えることの大切を指導します。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>R3</td><td>87.0</td><td></td><td></td><td>89.7</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>83.3</td><td></td><td></td><td>86.4</td></tr> </table> ・児童・教職員共に80%を上回り、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・環境、防災に関する学習活動を行うときにはSDGsについて補足説明していくことで児童の意欲喚起を図る。 ・テレビ等でSDGsを取り上げる場面が増えているので、折に触れて話題にすることで意識付けを図る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	87.0			89.7	R2	83.3			86.4
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R3	87.0			89.7															
R2	83.3			86.4															
	B1 家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	①家庭と連携して、「家庭学習マイプラン」により、宿題の出し方を工夫し家庭学習の習慣化を推進していきます。 ②学年の発達段階に合わせた自主学習の方法や内容・量について指導し、継続して取り組めるようにするとともに、手本となる児童のノートを称賛するなど児童の意欲喚起に努めます。	B	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>R3</td><td>95.7</td><td>73.6</td><td></td><td>69.0</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>100</td><td>79.4</td><td></td><td>75.0</td></tr> </table> ・児童・保護者は目標数値の80%に達しなかった。また、教職員・保護者・児童とも昨年度よりポイントが下がった。 【次年度の方針】 ・「家庭学習マイプラン」を工夫改善しながら家庭学習の実施を推奨し、習慣化をさらに図るための指導に努める。 ・自分の生活時間に合わせた自主学習ができるようやり方や内容など学年に応じて継続して指導する。 ・「ノート賞」の実施や自主学習ノートの模範例の提示などを行い、児童の自主学習への意欲を高める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	73.6		69.0	R2	100	79.4		75.0
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R3	95.7	73.6		69.0															
R2	100	79.4		75.0															
	B2 児童は、読書習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、読書活動に進んで取り組んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	①朝の読書の時間や、学校支援ボランティアによる読み聞かせの定期的な実施により、本に親しむ機会を多く設定し、児童の興味関心を高めます。 ②チャレンジブックの実施、読書週間でのイベント等を通して、豊かな感性を育む読書活動の推進に努めます。 ③週に1時間、クラスでの読書の時間を設定できるよう努めたり、長期休業中に「うち読」を勧めたりしていきます。	A	達成状況】 <table border="1"> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> <tr> <td>R3</td><td>95.7</td><td>70.8</td><td></td><td>70.7</td></tr> <tr> <td>R2</td><td>91.3</td><td>64.2</td><td></td><td>75.0</td></tr> </table> ・教職員は目標数値の90%を上回ったが、児童・保護者は目標数値に達しなかった。しかし、教職員・保護者は、昨年度のポイントを上回った。 【次年度の方針】 ・これまでの朝の読書の時間の確保や学校支援ボランティアによる読み聞かせに加え、図書館司書によるブックトークを実施して児童の興味・関心を高める。 ・国語の単元と関わりのある本を学級文庫に配置したり、チャレンジブックに入れたりして、児童の関心を高める。 ・図書館でのイベントやチャレンジブックの他、お昼の放送を活用して、図書の紹介やお話給食など、児童が主体となった活動を実施して、読書への関心を高める工夫をする。 ・長期休業中で「うち読」を進める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	70.8		70.7	R2	91.3	64.2		75.0
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R3	95.7	70.8		70.7															
R2	91.3	64.2		75.0															

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】(A16) 全体アンケートの「 教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①日常の観察や相談活動のほか教育相談週間やQ-U検査など、多くの視点から児童理解に努めます。 ②通常の学級で特別な支援を必要とする児童の様々な教育的ニーズに対応するため、かがやきルームや特別支援学級、通級指導教室の効果的活用を図るとともに少人数指導やTTなど個に応じた指導・支援に努めます。 (定期的・臨時的な教育支援委員会設置)	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・昨年度よりも下回ったものの、教職員の目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、児童指導主任や特別支援コーディネーター、SC・SCM等、専門的知見を活用しながら共通理解を図り、児童指導に努力していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7				R2	100			
		教職員	保護者	地域住民	児童														
	R3	95.7																	
R2	100																		
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「 学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。 」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上	①児童についての日常の情報交換や観察、教育相談、アンケート調査等とおして、児童の実態把握、いじめの早期発見・早期解決に努めるとともに、「ネットコミュニケーションのマナーやルールの大切さと危険性」について、懇談会等の機会を利用して児童・保護者への啓発に努めます。 ②教科や道徳、学級活動の時間に、「いじめ」は絶対に許されないということを、継続指導していきます。 ③「いじめゼロ強調月間」を設定し、取り組みの様子を家庭に周知するとともに、全児童が作った標語を教室に掲示するなどして意識付けを図ります。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>76.3</td><td>100</td><td>98.9</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>79.3</td><td>100</td><td>97.8</td></tr></table> ・児童・教職員・地域は目標数値を超えた。保護者については昨年度よりポイントが下がった。保護者は目標値の90%に達しなかった。 【次年度の方針】 ・いじめの早期発見・早期解決に向けて、職員会議前の時間を活用し、教職員間の情報交換を密にするとともに、いじめ防止基本方針をもとに、年間を通してアンケートや教育相談を計画的に実施し事案や子供の不安を把握した場合は、事実の把握と迅速かつ継続した指導支援を組織で行う。 ・教科や道徳、学級活動の時間の継続指導はもちろん、いじめゼロ強調月間の取組やいじめに関する学校の様々な取組を学校ホームページや学年だよりで積極的に知らせ、また、教育相談を実施して得られた情報を活用し、保護者との連携を密にすることで、信頼関係を構築していくよう努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	76.3	100	98.9	R2	100	79.3	100	97.8	
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R3	100	76.3	100	98.9															
R2	100	79.3	100	97.8															
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「 教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。 」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	①「挨拶」「励まし」「称賛」等の、お互いをより身近に感じることができるよう気軽な言葉かけを行ったり、主体的に活動する場面や、活躍できる場面を授業の中に設定したりするなど、すべての児童にとって居がいのある、温かい雰囲気学の学級経営を行います。 ②不登校の兆しを見逃さずに早期対応を確実に行うとともに、教育相談やQ-Uテストを通して児童の悩みや困り感の早期発見に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td>86.9</td><td></td><td>97.1</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>86.5</td><td></td><td>97.8</td></tr></table> ・児童・教職員は90%、保護者は85%を超え、目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・教育相談や日々の学校生活内での児童との対話を教職員が心がけ、児童の様子のわずかな変化を見逃さないようにする。 ・帰りの会等を利用して児童のがんばりを学級内で共有したり、励まし合ったりすることで温かい雰囲気学の学級を作ることができるようになる。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	86.9		97.1	R2	100	86.5		97.8	
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R3	95.7	86.9		97.1															
R2	100	86.5		97.8															

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】(A13) 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	①外国人児童等、支援が必要な児童に対して、充実した学校生活を送ることができるよう、関係機関と連携し、様々な障害を克服することができる支援体制づくりに努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・昨年度よりも下回ったものの、教職員の目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も、児童指導主任や特別支援コーディネーター、SC・SCM、ALT等、専門的知見を活用しながら共通理解を図り、児童指導に努力していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7				R2	100			
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	95.7																	
R2	100																	
A17 学校は、活があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答90%以上	①児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認めて伸ばす指導に努めます。 ②児童会活動や縦割り班活動の充実、学校行事の工夫・改善を通して、児童が主体的に活動する場を多く設定することで、楽しく活気あふれる学校づくりを目指します。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>95.7</td><td>92.7</td><td>100</td><td>93.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>91.4</td><td>100</td><td>92.9</td></tr></table> ・全て90%を超え、目標数値を上回っている。 【次年度の方針】 ・休み時間の外遊びを奨励し、より活気のある雰囲気作りをする。 ・コロナ禍の中でできることを模索しつつ児童会活動・縦割り班活動を充実させることで異学年間の交流を活発にし、児童にとって「居がい感」のある学校づくりを進める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	95.7	92.7	100	93.7	R2	100	91.4	100	92.9
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	95.7	92.7	100	93.7														
R2	100	91.4	100	92.9														
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	①授業の「ねらい」を明確にし、ねらいや目標を達成させるための「手だて」を工夫し、児童が主体的に学びに取り組めるように、指導・支援方法の改善に努めます。 ②確かな学力を育成するため、少人数指導、習熟度別指導、T・T、かがやきルームでの指導など、個に応じた指導の更なる充実に努めます ③朝の活動（パワーアップタイム）の時間に、担任以外の教職員も加わり、複数の指導体制による学習支援を行い、学級・学校全体の学力向上に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>83.3</td><td></td><td>98.3</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>83.9</td><td></td><td>98.9</td></tr></table> ・教職員・児童は目標数値を上回ったが、保護者は目標数値を下回った。さらなる指導・支援方法の改善に努める必要がある。 【次年度の方針】 ・教科の目標が反映された「ねらい」と「振り返り」の実施や教材や手立てを工夫した授業の実践に努め、分かる授業づくりに取り組んでいく。 ・学校体制での学習支援や少人数指導、かがやきルームでの指導に加えて、各教室でも児童の理解度に応じた指導が充実するように工夫する。 ・朝の活動で学習の基礎的基本的な内容の定着が図れるよう指導体制や課題プリントの作成など工夫する。 ・業務をスリム化しつつ、これまで以上に教材研究の時間や児童と向き合う時間を確保して、児童の状況に応じた指導に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	83.3		98.3	R2	100	83.9		98.9
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	100	83.3		98.3														
R2	100	83.9		98.9														

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①様々な職員の専門性を生かし、効果的・効率的に授業や業務が行われるよう連携します。 ②学校行事や校内研修において、児童についての情報を共有したり、質の高い指導法を学び合ったり、全教職員が一丸となって、児童の指導を充実させます。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>95.8</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の目標数値を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・定期的な打合せ、会議等で共通理解を図るだけでなく、今後も日頃から良好な人間関係づくりに努め情報を共有することで、円滑な業務推進を目指す。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100				R2	95.8			
	教職員	保護者	地域住民	児童													
R3	100																
R2	95.8																
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	①働き方を見直すことで、時間を確保し一人一人の児童と向き合い、適切な指導・支援に努めます。 ②多様な専門性を有する学校スタッフが共同して教材を作成したり、資料収集したりすることで、児童の指導を充実させていきます。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>79.2</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ・教職員の目標数値を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・コロナ禍ではあるが、さらに業務の効率化を図り、児童指導の充実に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100				R2	79.2			
	教職員	保護者	地域住民	児童													
R3	100																
R2	79.2																
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員・5・6年児童の肯定的回答85%以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答80%以上	①可能な限り小・中学生が交流を図れる活動を、中学校と連携しながら工夫し、地域社会の一員として互いにつながり合って生きていこうとする意識を高めます。 ・あいさつ運動(年1回) ・宮っ子チャレンジ協力 ②各教科の9年間を見通した年間指導計画の実践や授業力向上のための小中合同研修の推進等により、9年間を見通した学力向上の推進を図ります。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>73.6</td><td>100</td><td>65.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>95.8</td><td>78.2</td><td>100</td><td>69.4</td></tr></table> ・教職員の目標数値を大きく上回ったものの、保護者・児童の数値は下回った。 【次年度の方針】 ・コロナ禍で活動が制限される中、次年度も可能な限り交流が図れるよう努力し、児童・保護者への広報活動に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	73.6	100	65.7	R2	95.8	78.2	100	69.4
	教職員	保護者	地域住民	児童													
R3	100	73.6	100	65.7													
R2	95.8	78.2	100	69.4													
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】(A23) 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①地域のボランティアや専門家を学校に招き、学年に応じた様々な体験活動を実施するなど地域から学ぶ特色ある教育活動に努めます。 ②学校・家庭・地域が一体となり児童を育てるために、学校行事、学習、生活指導等において家庭・地域の参加を得た活動を展開・実践します。 ③学年だよりやホームページで、学校行事や学校の様子、学校の取組を積極的に発信し、理解と協力が得られるようにしていきます。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>89.6</td><td>100</td><td>90.2</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>89.1</td><td>100</td><td>90.8</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域とも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・コロナウイルスの感染拡大の観点から内容を工夫し、安心して取り組めるようにする。活動内容及び内容の変更については、学校だよりやホームページで積極的に紹介することで、保護者や地域の理解を得ていく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	89.6	100	90.2	R2	100	89.1	100	90.8
	教職員	保護者	地域住民	児童													
R3	100	89.6	100	90.2													
R2	100	89.1	100	90.8													

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】(A22) 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①学校支援ボランティアやコミュニティセンター、オリオン通り商店会などと連携し、学校と保護者、地域が一体となった教育活動を推進し、児童が多くの人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させます。 ②PTA運営委員会や地域協議会で学校の取組を説明し、学校の現状や課題について理解していただき、改善策を検討して実践していくなど地域・保護者と連携・協力して学校教育活動の充実に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>89.6</td><td>100</td><td>90.2</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>89.1</td><td>100</td><td>90.8</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域とも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・活動方法を工夫改善し、安心・安全面に配慮しながら地域の人材・施設を有効活用した教育活動を推進していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	89.6	100	90.2	R2	100	89.1	100	90.8
	教職員		保護者	地域住民	児童													
R3	100	89.6	100	90.2														
R2	100	89.1	100	90.8														
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	①定期的な安全点検を実施し、迅速な修繕・補修による適切な学習環境の整備に努めます。 ②保護者や学校支援ボランティアと連携を図り、壁面や廊下等を活用して児童の作品を掲示するなど、学習や活動の意欲を高める温かな環境づくりを推進します。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>88.6</td><td>100</td><td></td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>89.0</td><td>100</td><td></td></tr></table> ・教職員、地域住民は100%、保護者回答は85%を超え、目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、安全点検や学校ボランティアとの連携による環境整備を行う。 ・消毒液の設置、点検をし、安心して来校できる雰囲気作りを心がける。 ・学校支援ボランティアの活動について HP や便り等で知らせ、保護者への周知を図る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	88.6	100		R2	100	89.0	100	
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	100	88.6	100															
R2	100	89.0	100															
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】(A10) 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 85%以上	①児童の興味を高めたり、理解を深めたりする上で効果的な ICT 機器や図書等を整え、環境づくりに努めます。 ②教材・教具の保管場所を見直したり、自主研修や校内研修を行ったりして、有効活用できるようにしていきます。 ③授業やクラブ活動でパソコン操作の支援ボランティアをお願いし、パソコンの有効活用を図ります。	A	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>86.5</td><td></td><td>93.7</td></tr><tr><td>R2</td><td>95.8</td><td>70.8</td><td></td><td>91.3</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者とも目標数値に達した。 【次年度の方針】 ・一人一台配付されたタブレットとこれまでの ICT 機器を効果的に関連付けて活用できるように環境を整え、GIGA スクール構想を着実に実施する。 ・学習内容や活動から必要となる参考図書を選出し図書室や各学級に補充を進めるとともに、市立図書館の資料も積極的に活用し図書の充実を図る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	86.5		93.7	R2	95.8	70.8		91.3
	教職員	保護者	地域住民	児童														
R3	100	86.5		93.7														
R2	95.8	70.8		91.3														

本校の特色・課題等	B 3 「自分・友だち・中央地区」みんな大好き夢いっぱい事業を掲げ、「学び」・「やさしさ」・「生きる力」の育成を図る。	①本校のマスコットである「ザウルス」を活用し、「考える」「やりぬく」「たすけあう」のあいことばを意識させた各種活動の充実に努めます。	B	【達成状況】													
	【数値指標】 全体アンケートの「「考える」「やりぬく」「たすけあう」ザウルスキッズとして縦割り班活動や地域の行事などに一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85 % 以上	②様々な人との関わりの中で、自己を高めることができるよう、体験活動や縦割り班活動、地域行事への参加など可能な限りできる活動の展開に努めます。 ・教えて先輩事業 ・未来体験 ・クリーン活動		<table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R3</td><td>100</td><td>91.7</td><td>100</td><td>94.8</td></tr><tr><td>R2</td><td>100</td><td>94.2</td><td>100</td><td>94.5</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域の、全ての数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ザウルスキッズとして、「考える」「やりぬく」「たすけあう」のあいことばを意識し、体験活動や縦割り班活動、地域行事への参加など可能な限りできる活動の展開に努め、児童の自己肯定感を高めていく。 ・各行事の事前にどの合言葉が当てはまるのかを考えさせ、振り返りもしながら児童の意欲喚起を図る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R3	100	91.7	100	94.8	R2	100	94.2
	教職員	保護者	地域住民	児童													
R3	100	91.7	100	94.8													
R2	100	94.2	100	94.5													

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度の達成状況について、地域・教職員・児童の多くの項目で目標値を上回った。一方、目標が達成できなかった項目は、No.21, B1, B2の児童の評価、およびNo.5, 7, 14, 18, 21, B1, B2の保護者の評価であった。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの人が交流する活動が制限されたり、行事や取組を例年通り実施したりすることは難しかった。しかしそのような中でも、感染対策を講じながら、教職員が一丸となり、学びを止めず、児童にできるだけ通常に近い形での学習活動ができるよう努めてきた。教育活動の充実を図り、学校の情報・状況を発信しながら、地域や保護者と連携協力し、支えられての1年であった。

1 ≪学校運営≫ 学校の組織力を高め、学校・家庭・地域の連携・協働による特色ある教育活動の展開

コロナ禍の中、教育活動を実施するにあたり、全職員の共通理解のもと、協力して業務に取り組んできた。その結果、「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」等で、児童・教職員・保護者の目標数値を上回ることができた。コロナ禍により、小中一貫教育や地域学校園の活動は難しく、校外行事等を含め様々な行事が中止・変更したことが影響し、目標達成に至らなかった項目もあった。今後は、コロナ禍での行事等を、学校・家庭・地域の連携をさらに密にし、工夫しながら、ザウルスキッズの合言葉「考える」「やりぬく」「たすけあう」の実践化を図っていききたい。

2 ≪学習指導≫ 主体的に取り組む、共に学び合う児童の育成

学習活動が制限される中、児童の学びに対する主体性を高めるため、授業の中で知的好奇心を喚起し「知りたい」「解決したい」と思えるような課題の設定や提示の仕方を工夫してきた。今年度から始まったGIGAスクール構想では、一人一台端末やICT機器の活用を図り、効果的な学習の方法を模索しながら、積極的に取り組んできた。しかし、本校独自の目標項目である「児童は、家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる」「児童は、読書習慣を身に付けている」については、肯定的回答率が目標数値には至らず課題が残った。この結果を受け、今後さらに、主体的で充実した活動になるよう、学習習慣を定着させるための工夫改善を行い、一人一人に応じたきめ細やかな指導に努めたい。また、児童が「できた!」「分かった!」と実感できるような授業を目指し、主体的に取り組む共に学び合う児童の育成に努めたい。

3 <<児童指導>> 基本的な生活習慣を身に付け、集団生活のルール・マナーを守る態度の育成

制約が多い中、学校も児童も新しい生活様式に少しずつ慣れ、できることをできるだけ頑張ろうと努力している様子が「きまりやマナーを守って生活をしている」の肯定的回答率からも垣間見える。守らなければいけないこと・守らせなければいけないことが増えてしまったが、児童一人一人がこの生活様式を守って生活していこうとする意識が高まったように感じる。また、あいさつについては昨年度の数値とほぼ同様で目標値を上回っている。できるようになったことやよい変容が見られたことを称賛していくことで、自己肯定感や意欲が高められるよう支援していく。コロナ禍の中にあっても「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」ことを自覚している児童を大切に育てていきたい。

4 <<健康・体力>> 自ら判断し、進んで健康で安全な生活をしようとする児童の育成

手洗い・うがいの奨励や消毒液設置・学校環境整備ボランティア等の環境面における新型コロナウイルス感染症予防の働きかけで「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」についての児童・教職員・保護者・地域全ての対象が目標数値を上回った。また、楽しく運動するための様々な取組、外遊びの奨励によって進んで運動に取り組む児童が徐々に増えてきたことが、健康な生活へのつながりを見せている。さらに、給食の時間には私語を慎み、静かに準備・片付けをしたり食べたりすることができるようになったことも児童の安全な生活への意識向上につながっている。

引き続き、マスクの着用やソーシャルディスタンス、手洗い・うがい・消毒の徹底といった児童の感染症予防に対する行動や意識の定着について、地域・保護者と連携し支援してもらえるよう、健康や体力に関する情報を発信していきたい。

7 学校関係者評価（書面にて）

- ・ 新型コロナウイルス感染症が2年にもおよび、現場はもとより児童に及ぼす影響が心配であるが、児童の様子や行動を見るとそれぞれに頑張っているようで安堵した。アンケート結果からも、児童がコロナに負けず、生き生きと健やかに生活できている様子が伺えたように感じた。
- ・ 過日の地域協議会の授業参観時に、先生方の様々な工夫を凝らした授業の様子や、コロナに対応したイベント写真の掲示等を拝見し、学校のご尽力をうれしく思い、感謝の念を抱いた。
- ・ 先生方の熱心な取り組みに対する評価は妥当だと思う。特に「宇都宮のよさを知っている」に対する回答が、市の平均より上回っていることはすばらしい。
- ・ 小中一貫教育への取り組みに対する児童の肯定的回答率が低い。コロナの影響が出ているのかやむを得ないところもある。次年度に期待したい。
- ・ 家庭学習や自主学習の取り組みについて、教職員と児童・保護者の回答に隔たりを感じる。タブレット学習などをさらに活用して、児童の意欲を喚起したり達成感を味わわせたりして、楽しく学べる工夫を期待したい。
- ・ 学校に保護者が参集する機会が少なく、ボランティアを募ることもままならなかった。次年度、工夫しながら声をかけていきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。特に重点とすることは以下のとおりである。

【学校運営】

- ・ 教職員一丸となり、ザウルスキッズの合言葉「考える」「やりぬく」「たすけあう」の具現化を図る。
- ・ 地域や保護者との連携を大切にし、学校の取組や児童の頑張りを積極的に発信し（学校ホームページの内容の充実と定期的な更新の継続）、児童の健やかな成長に向けて、互いの役割を担っていけるようにしていく。
- ・ 中央地区の地域教育力を生かした教育活動の充実や開かれた学校づくりの推進に努める。

【学習指導】

- ・ 児童の知的好奇心を喚起し、「できる！分かる！」を実感できるような授業を目指し、個に応じたきめ細やかな指導を目指し、思考力・判断力・表現力等の学力向上を図る。
- ・ 一人一台端末やICT機器の効果的な活用を図り、児童の主体的な学びや学び合いから、課題解決できる能力を育成するような授業の展開に努める。
- ・ 学習習慣を定着させるための指導を工夫改善し、自主学習の仕方や取組内容についての具体的な支援を行い、家庭学習の充実を図る。

【児童指導】

- ・ 生き生きと充実した学校生活を送れることを目指し、一人一人の自己肯定感を高められるように、認め・励ます指導や自信をもたせるような支援を継続していく。
 - ・ 「いじめは絶対に許されない行為である」ことを学校全体や学級で指導していくとともに、様々な機会をとらえ、児童への周知、情報収集、情報共有など、いじめ防止に努めていく。
 - ・ 生活のきまりやマナーについては、全教職員が、いつ、どこでも、だれにでも同じ指導ができるように取り組むことで、児童がさらに規範意識をもって生活できるようにしていく。
- 中学校と連携し、あいさつ運動を展開するとともに、児童が主体的にあいさつできるような指導の工夫をする。また校内だけでなく、保護者・地域と連携し、あいさつの励行を推進していく。

【健康体力】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響が続くことを想定し、新しい様式等の感染予防に関わる児童の行動や意識の定着、学校環境の整備に努める。
- ・ 特別活動と体育科の関連を図り、日常的に健康に対する意識を高めていく。また、学校給食を通して、食に関する指導の充実を図る。
- ・ 安全指導を充実させ、様々な危険を予測し、自らの命を守りぬく行動力を育成する。